活動報告（1984年度～1986年度）

事務局

1984年度活動報告

Ⅰ．夏の例会

○1984年8月31日・9月1日（於　長野県更埴市森温泉）

プログラム

8月31日：**巡検・特別講演**

巡検　松代地震層・気象庁松代地震観測所

特別講演

松代周辺地域の地震活動と地殻変動の観測　竹山一郎（気象庁松代地震観測所長）

スライドと講演

中国最新地質情報　藤田至則（新大災害研）

9月1日午前：**シンポジウム「北部フォッサマグナ地域の地震とネオテクトニクス」**

あいさつ　加藤碩一（世話人・地調）

北部フォッサマグナ地域の後期新生代の地質構造発達史　赤羽貞幸（信　州　大）

新潟県中部の地殻変動と地震活動　飯川健勝（小千谷西高）

信越地域の地殻変動と地震活動　溝上　恵（東大地震研）

信越地域の地震地質　加藤碩一（地　調）

総合討論

午後：**個人講演**

1. 青蔵高原の上昇とネオテクトニクス　松島信幸（松　尾　小）
2. 来馬層群の砂質頁岩を用いた長時間三軸クリープ試験結果について　横田優治（新潟県工技センター）
3. 小千谷周辺の沖積面の形成について　飯川健勝（小千谷西高）
4. 四万十帯に発達する横断断層の成因について　中村和善（京　大）
5. 地質構造運動の規模について　鈴木尉元（地　調）

Ⅱ．冬の例会

○1984年12月22・23日（於　工業技術地質調査所）

12月22日：**個人講演**

1. 山陰地方の褶曲形成機構の数値実験について　吉村　満・三梨　昂（島根大）・小玉喜三郎（地　調）
2. 褶曲形成の運動像── 千葉県大釜戸背斜を例として ──　藤田　望（東　海　大）
3. 茨城県南西部における更新世後期の地殻変動　宮本弘介（新　潟　大）
4. 丹沢山地の断層系とその振動性状　角田史雄（埼玉大）・海野芳聖（国土地理院）・赤松　陽（都立館高校）・足立久男（都立淵江高校）
5. 九州佐賀関半島の三波川変成岩類の変形小構造　阿部正憲（新　潟　大）
6. 新潟県水無川変成岩類の変形相系列　竹之内　耕（新　潟　大）
7. 日高変成帯のマイロナイトの熱ルミネッセンス（予報）

卯田　強・橋本哲夫（新　潟　大）

8. 三波川帯のテクトニックメランジェ帯　高須　晃（京　都　大）

9. 長野県領家帯弱変成部原岩の末固時変形について

大塚　強（大阪市大）・森清寿郎・矢野賢治・大友幸子・富樫　均（信州大）

10. 丹波帯とその周辺の中・古生代構造変形史　清水大吉郎（京　都　大）

11. 西南日本中新世の火成活動とそのモデル　三宅康幸（京　都　大）

12. 紀伊四万十帯にみられる地すべりの構造規制　藤田　崇（大阪工大）

12月23日：**構造地質研究会・砕せつ性堆積物研究会　合同シンポジウム**

「スランプ相の形成とテクトニクス」

シンポの内容は　特別号「スランプ相の形成とテクトニクス」（1985）に掲載してあります。

1985年度活動報告

Ⅰ．春の例会

○1985年4月2日（於　山口大学日本地質学会会場）

総　会（予算案，60年度運営方針など）

特別講演　三宅康幸（京　都　大）

「西南日本中新世の火成活動と構造運動とそのモデル」

Ⅱ．夏の例会

○1985年9月4・5日（於　MRA アジアセンター）

プログラム

9月4日：**シンポジウム「大磯・丹沢周辺のテクトニクス」**

南部フォッサマグナの大構造の問題―甲府盆地・櫛形山脈の地質構造

角田史雄（埼　玉　大）

駿河湾・富士川周辺地域の層序と構造　柴　正弘（東海大自然史博）・駿河湾団研

丹沢・足柄地域の層序と構造　竹越　智（所沢西高）・足柄団研

プレート論からみた大磯・丹沢地域のテクトニクス

衝突帯としての南部フォッサマグナ―伊豆の衝突と足柄層群

天野一男・高橋治之　横山健治・立川孝志・横田千秋・菊池　純（茨城大）

相模平野の中・後期更新世における地殻変動　岡　重文（地　調）

関東・丹沢地域の重力構造　駒沢正夫（地　調）

総合討論

9月5日：**個人講演**

1. 海底下の活構造　安間　恵（川崎地質）

2. 西南日本の活構造環境：琉球弧と西南日本の境界問題に関連して

佃　栄吉（地　調）

3. チャートにみられる種々の褶曲とその形成過程　木村克己（地　調）

特別講演

王　仁教授（北京大学）　「造構応力場の逆転」

Ⅲ．冬の例会

○1985年12月22・23日（於　全林野プラザ・フォレスト）

プログラム

12月22日：**シンポジウム「構造地質の歴史と課題（その１）資源問題とテクトニクス」**

石油鉱床形成場の構造地質学的諸問題　国安　稔・服部昌樹（石油資源）
水資源とテクトニクス　榆井　久（千葉県公害研）
石炭資源とテクトニクス　相原安津夫（九　大）
テクトニックプロセスと地殻の開発　小出　仁（地　調）
地熱と地質構造　佐藤　浩（日本重化KK）
陥没と資源　藤田至則（新大災害研）
総合討論

12月23日：**個人講演**

1. 郷村・山田断層発掘調査速報　佃　栄吉（地　調）
2. 構造地質学の論理構造と地学教育　池田幸夫（広大附属福山）
3. 関東平野の地震分布とその電算処理　角田史雄（埼　玉　大）
4. 鉱脈から広域応力場を推定するにあたって―北海道中期中新世以降の鉱脈の例―　渡辺　寧（地調北海道支所）
5. 三浦層群中の傾斜不整合問題について　三梨　昂・山内靖喜・日高一彦（島根大）
6. 長野県聖山西方の褶曲構造と形成時期　波多野靖彦（富　山　大）
7. インドネシア・フィリピン弧の発震機構からみた深部過程について　鈴木尉元（地　調）
8. 内帯ジュラ系コンプレックスにみられる正立褶曲とチャートの小褶曲　木村克己（地　調）
9. 中央構造沿いの圧砕岩類に発達する Shear band foliation について（予報）　高木秀雄・伊藤真弓・大澤英昭・林　正貴（早大）
10. 飛騨帯片貝川周辺のマイロナイトと変形小構造　竹内　耕（新　潟　大）
11. 四国佐田岬の三波変成帯の変形小構造　山口修司（新　潟　大）
12 山形県朝日帯大鳥池西側のマイロナイト　吉崎裕幸・卯田　強（新　潟　大）
13 南房総上総層群堆積盆の発達様式と地質構造の形成　指宿敦志（石油資源）・安房団研

1986年度活動報告

Ⅰ．春の例会

○1986年５月４日（於　山形大学日本地質学会会場）

総　会（予算案，61年度運営方針など）

特別講演　北村　信（東北大）

「構造地質学のあり方について」

Ⅱ．夏の例会

○1986年8月25・26・27日（於　佐渡ケ島　新潟大学臨海実験所）

プログラム

8月25日：**個人講演**

1. ナウマン，フォッサマグナの100年　清水大吉朗（京　都　大）
2. 飛騨三角地帯　宇井啓高（富　山　大）
3. 第四紀の衝上断層　藤田至則（新　潟　大）

特別講演

J. G. RAMSAY （チューリッヒ大学）

「The Shear Zones Geometory」

8月26日：**シンポジウム「大規模剪断帯とテクトニクス」**

シンポジウムのねらいについて　卯田　強（新　潟　大）

1. マイロナイト形成とテクトニクス

MTL のマイロナイトとテクトニクス―マイロナイトの微小構造・組織を中心に―　高木秀雄（早　大）

EPMA 組成像によるマイロナイトの組織観察　伊藤真弓（早　大）

MTL 近傍の変成岩類の熱構造と重複変成作用―長野県市野瀬付近での研究　小野　晃（無機材研）

電子顕微鏡を用いたマイロナイトの微小構造解析　宇井啓高（富　山　大）

香川県手島の領家帯中のマイロナイトについて　大友幸子・桜井康博・豊島剛志（広　島　大）

棚倉構造帯・畑川破砕帯のマイロナイト―ファブリックを中心に―　越谷　信（東　北　大）

棚倉構造帯の構造的意義　天野一男（茨　城　大）

朝日帯のマイロナイト　吉崎裕幸・卯田　強・茅原一也（新　潟　大）

飛騨変成帯のマイロナイト　竹之内耕・宇次原雅之（新　潟　大）

飛騨帯の変成作用とマイロナイト化作用　豊島剛志（広島大）・小山内康人（北　大）

2. 大規模剪断帯とテクトニクス

Intra-arc Shear Zones　小松正幸（新　潟　大）

日本海形成と関連して　植村　武（新　潟　大）

総合討論

8月27日：外海府巡検

Ⅲ．冬の例会

○1986年12月21・22日（於　埼玉会館）

プログラム

12月21日：**シンポジウム「東北日本の地殻・上部マントルの構造と地殻構造」**

1. 東北日本弧における新生界の地質構造　北村　信（元東北大）

コメント　新第三系の堆積作用からみた中央北海道の構造運動　保柳康一（北　大）

2. 東北日本弧における地殻水平歪とその地学的意義　多田　堯（国土地理院）

コメント　東北日本における水平変動と地形・地質構造　飯川健勝（小千谷西高）

3. 東北日本の地震テクトニクス　高木章雄（東　北　大）

コメント　南雲昭三郎（東大震研）
鈴木尉元（地　調）

4. 総合討論

12月23日：**個人講演**

1. 新生代初期における本州弧中央部の造構過程　角田史雄（埼玉大）
2. 総研（堆積盆と褶曲の実験的研究）の最終年度にあたって　三梨　昂（島根大）
3. 房総半島中部の志組背斜・豊岡向斜の形成過程について
小野　敏・中島良員・小玉喜三郎（地　調）・鈴木尉元（地　調）
4. 新潟県小国町南方の渋海川向斜の構造　金子良仁（新潟大）
5. 和歌山県竜神地域の変形作用について　山本高司（新潟大）
6. 美濃帯のトリアス・ジュラ紀チャートの小褶曲　大塚　勉（大阪市大）
7. 福井県大野市南東方の飛騨変成岩類および手取層群の構造
保坂　光・小林公一・卯田　強（新潟大）
8. 愛媛県入幡浜西方の三波川変成帯の変形小構造　増村通宏（新潟大）
9. 長瀞変成帯の変形小構造　金崎幸代（新潟大）
10. 地滑り崩壊土の亀裂と氷河の亀裂　藤田至則（新大災害研）

60年度会計報告

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	190,317	会誌（31号）印刷費	650,000
会費	434,500	郵送費	97,320
入会費	2,800	事務雑費	58,800
会誌売り上げ	277,435	行事雑費	7,000
利子及び利息	9,536	予備費	102,218
雑収入	750		
合計	915,338	合計	915,338

61年度予算案

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	102,218	会誌印刷費	500,000
会費(入会金を含む)	450,000	郵送費	100,000
会誌売上	250,000	事務・行事雑費	70,000
利子及び利息	3,000	予備費	135,218
合計	805,218	合計	805,218

編集後記

明日から国立大学Bグループの入学試験が始まる今，「構造地質」32号の編集を終った。なんともあわただしい限りであった。

茨城大学で「構造地質」の編集を受け持つのは27号以来，2度目である。27号の時は，会員の皆さんのご協力により，大部の雑誌を作ることができた。今回も，力作ぞろいの充実した内容のものになっている。執筆者の皆さんに心より感謝する。

「構造地質」が今後の構造地質学の発展におおいに寄与するよう，大切に育てて行きたいものである。

3／4，　7：50 pm，　1987

天野一男　記